

狭い道路の拡幅と市の管理 する樹木について

赤出川 義夫



問 首都直下地震に備え、防災・減災機能を向上させるため、震災時に火災の危険度が高い木造密集地域の4m未満の道路拡幅と、道路上の電柱移設の取組みは。

答 街づくり整備基準条例第8条に基づき、宅地開発が行われる土地に対し、市道の中心から2mや3mなどの道路後退と、その土地に電柱などがある場合には、民有地に移設するよう当該事業者に対し要請をしている。地権者の承諾が得られない場合は、道路上に存置となる。

問 市で管理する施設の樹木が歩道や道路、隣地に張り出している箇所が見受けられる。

剪定頻度、予算等管理は。

答 剪定頻度については、各公共施設の繁茂状況により年に1回から2年に1回程度、公園等で隣接する民地などに影響があるものは、年1回程度の剪定を行っている。予算等の管理については施設を所管する課が管理をしており、職員が対応出来ない高木などの樹木は、選定作業など業者に業務委託しそれ以外の樹木は職員で対応するなど必要な予算措置を行い、民地などへの配慮に努めている。今後も各公共施設の点検をはじめ道路パトロールなどを通じて適切な管理に努めたい。

認知症高齢者の 見守り体制の強化を

雪田 きよみ



問 行方不明の認知症高齢者の死亡率は約3%。早期発見が重要。しかし現実には家族が警察に通報しても、土日祝祭日夜間など見守りネットワークに繋がらない状況がある。①認知症高齢者の徘徊についての認識は。②徘徊リスクのある方を市に事前登録し、行方不明時に警察と市と両方に通報し、見守りネットワークに連絡するような仕組みを構築すべきでは。③行方不明の翌日5市1町へ、さらに翌日県へと広げていく仕組み。しかし行方不明の当日又は翌朝、他市で発見される現状がある。翌日になって5市1町に広げるのでは遅いのでは。

答 ①自動車事故など、危険があることは承知している。そのためにも一刻も早い発見は大事。見守りネットワークの活用等対策をとっている。②事前登録しなくても、今のやり方で十分機能していると考えている。これが十分と思っているわけではない。事業ができるだけ良い形で活用されるよう取り組んでいきたい。③時間の経過とともに範囲を拡大することで、ネットワークがより効率的に機能するよう努めている。

安全な越谷吉川線の道路に

飯島 正義



問 ①工事中の越谷吉川線が全線開通した場合、中井三丁目交差点と手前に設置される新たな交差点の間が150mと距離が近いことから渋滞が懸念されます。新設の交差点に信号機や右折帯など設置し、安全な交差点にすべきと考えますが。②三輪野江小学校前北側市道を通る車両が増え、交通事故等が懸念されます。車幅規制のポール設置など安全対策を実施する考えは。

答 ①新設される交差点は信号機、右折帯の設置など県と協議し、交通が円滑に進むよう計画しています。②は、通学路でもあり、危険であれば規制など公安委員会と協議し、安全対策を図ります。

◆小中学校体育館にエアコンの設置を

問 異常気象の中で小中学校体育館は、児童生徒の健康や教育環境を守ること、災害時は避難所として重要な防災拠点にもなります。早急にエアコンを設置すべきです。

答 市は、子どもの健康を一番と考えております。災害時は、冷暖房が整備されている校舎の活用を想定しています。体育館へのエアコン設置だけでなく、多角的に検討しています。

安全安心のまちづくりについて

松崎 誠



問 市役所移転に伴い、市役所北側の道路及び新しく一部開通した吉川橋の4車線通りを市民に親しまれる道路として、新たに道路名称を市民から募集する考えがあるかを伺います。

答 市民の道路に対する親近感を高める効果が期待されるので、他自治体の事例を参考にしながら研究してまいります。

問 旭公園球場のナイター照明が消灯作業忘れにより翌日の朝まで点灯したままという事案があり、それを連絡しようとした市民からの電話が庁舎停電検査でつながらず発生しました。危機管理意識について伺います。

答 委託事業者に対し、再発防止の徹底を依頼し、作業体制の見直し、チェックシートの活用等、確認作業の徹底など再発防止策を講じ、現在有効に機能していることは確認しています。市役所代表電話については、通信事業者が提供する転送サービスを利用し、通話可能な電話機に転送することで回避することが可能になり、転送サービスを利用して市民の安全安心につなげてまいります。